

魯迅

と



東北大学



魯迅が学んだ仙台医学専門学校階段教室外景
(魯迅曾就读的仙台医学专门学校教学楼外景)

・魯迅と東北大学

魯迅（本名周樹人）は、1881年9月25日に清国（現在の中華人民共和国）の長江下流域の浙江省紹興県に生誕し、1902年1月に南京の江南陸師学堂付設砒務鐵路学堂を卒業後、同年4月に清国留学生として我が国に留学し、東京の弘文学院普通速成科に入学した。同学院で、魯迅は日本語と基礎的科目を習得した。

魯迅の希望を受けて、1904年5月20日に当時の清国・楊公使から、仙台医学専門学校（現在の東北大学医学部）に対し、魯迅の入学希望に対する善処を要請する照会状が出された。

仙台医学専門学校は、この申し出を受けて、入学に関する文部省の規定に照らして検討し、無試験入学を認め、5月23日に楊公使あてに、入学許可通知書を発送した。

魯迅は、同年9月に仙台医学専門学校に入学した。

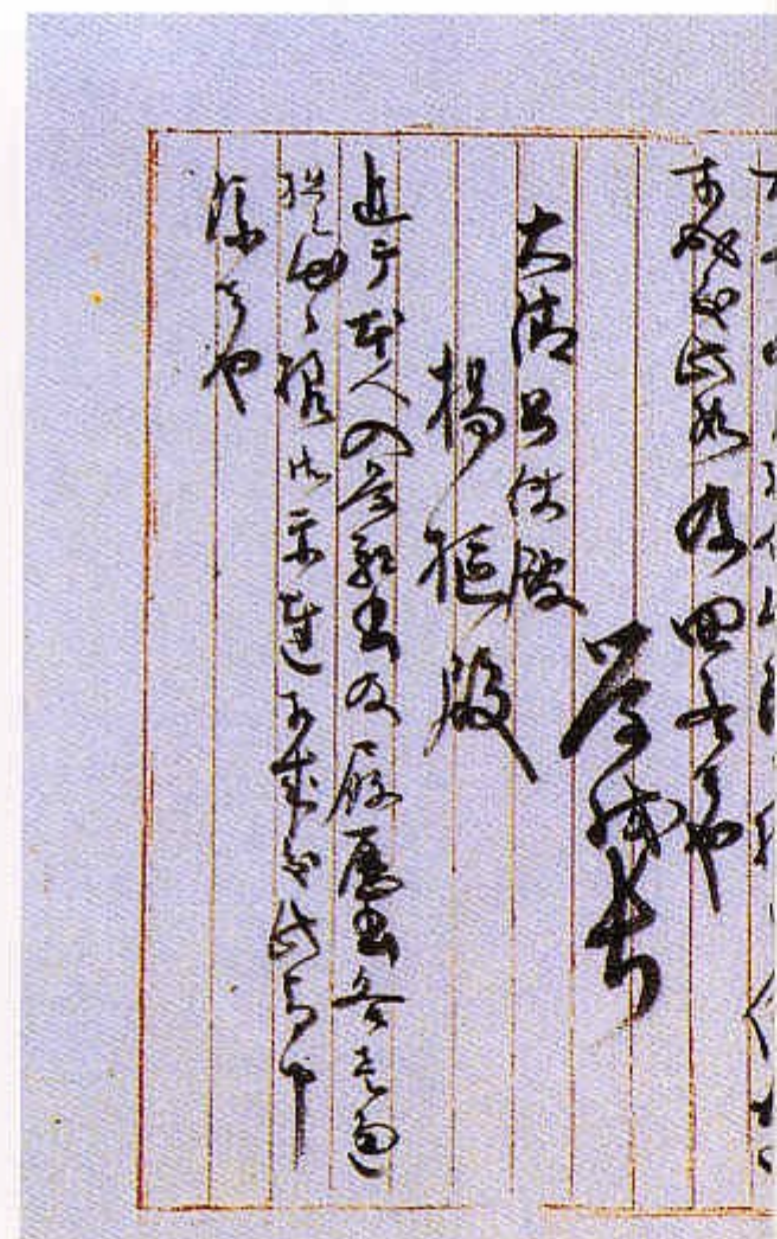
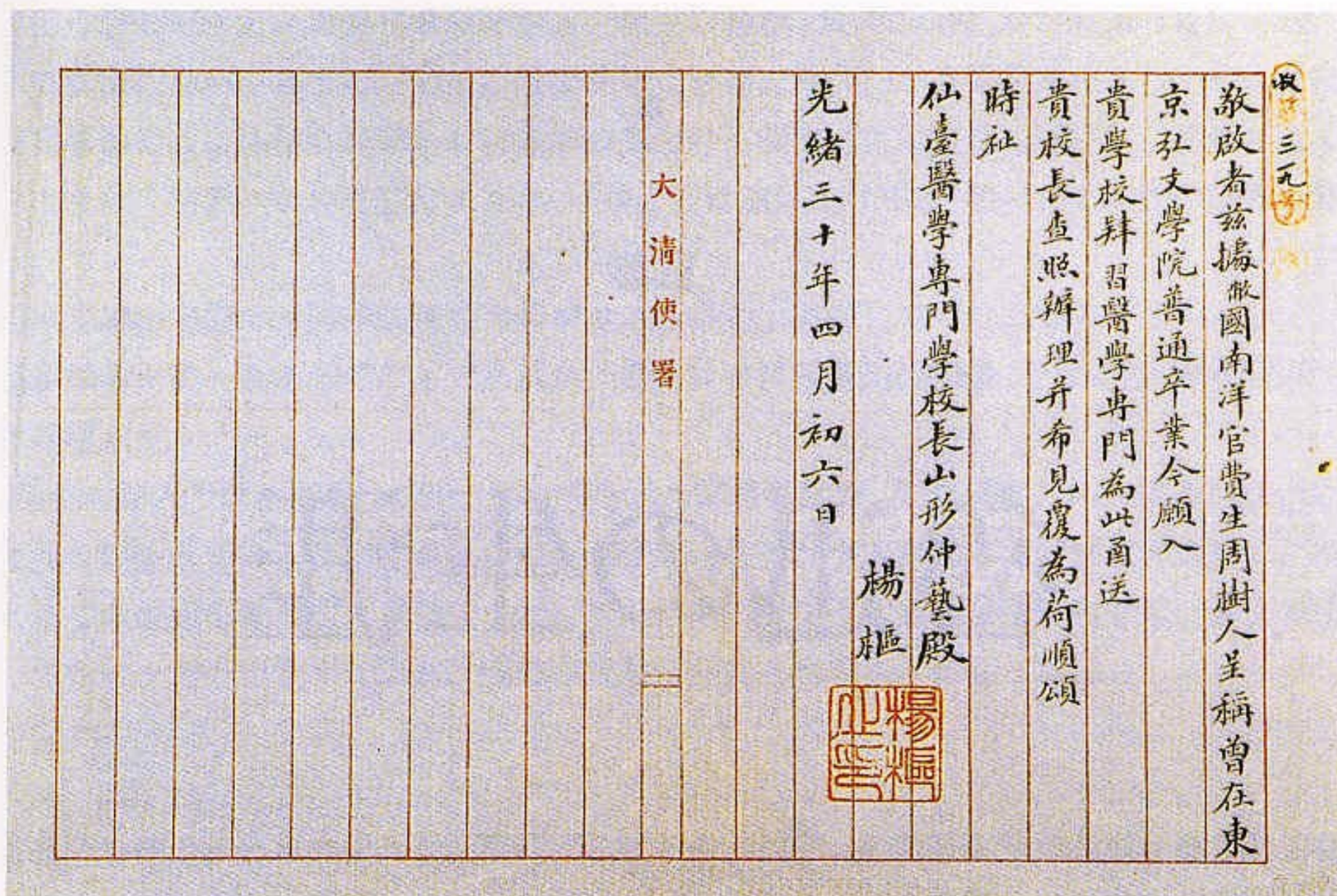
・魯迅和东北大学

魯迅(原名:周树人)1881年9月25日出生于清朝(现在的中华人民共和国)的长江下游浙江省绍兴县。1902年1月毕业南京的江南陆师学堂附属矿务铁路学堂之后,同年4月作为清朝留学生来我国留学,先就读于东京的弘文学院普通速成科。在此学院魯迅学习了日语和基础科目。

应魯迅的要求,1904年5月20日当时的清朝·杨公使向仙台医学专门学校(现在的东北大学医学部)提出了就魯迅的入学要求进行妥善处理的照会信。

仙台医学专门学校对此以文部省有关入学规则为依据进行探讨之后,决定允许免试入学。并于5月23日给杨公使寄送了入学许可通知书。

同年9月,魯迅进入了仙台医学专门学校。



周樹人（即ち魯迅）の入学に関する清国公使・楊樞から仙台医学専門学校校長あての照会状(左)及び仙台医学専門学校校長からの回答公文書控(右)

关于周树人(即魯迅)入学一事清朝公使·杨樞寄给仙台医学专门学校校长的照会信以及仙台医学专门学校校长的回信公函存底

・仙台医学専門学校での鲁迅

仙台医学専門学校に入学した鲁迅は、医学に関する基礎科目及び理論についての講義を受けたが、日本語の習得状況がけっして十分でなかったことから、解剖学教授の藤野巖九郎は鲁迅の語学力に懸念を抱き、独自に鲁迅の講義ノートの添削を行った。これ以降、藤野教授による鲁迅の講義ノートの添削は講義のたびに行われ、鲁迅の解剖学に対する興味と関心は、藤野教授に対する師事の心とともに高まったとされている。

鲁迅は第2学年に進級することができたが、第2学年の中頃、急速に医学に対する関心が薄れ、1906年3月、鲁迅は仙台医学専門学校を自主退学し、東京に移った。

以後、鲁迅は、東京において実弟である周作人とともに、文筆活動を行い、その後1909年8月に清国に帰国した。

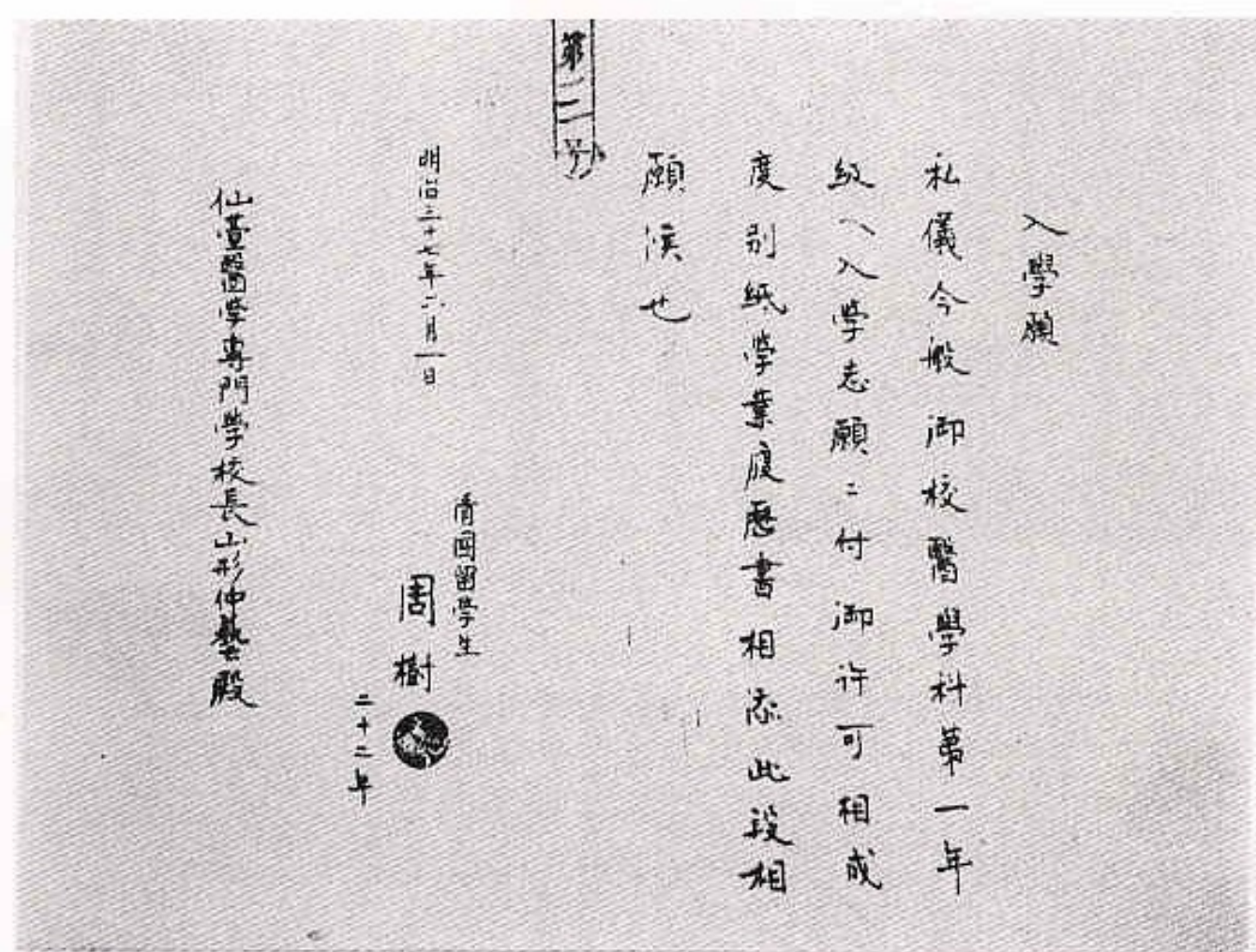
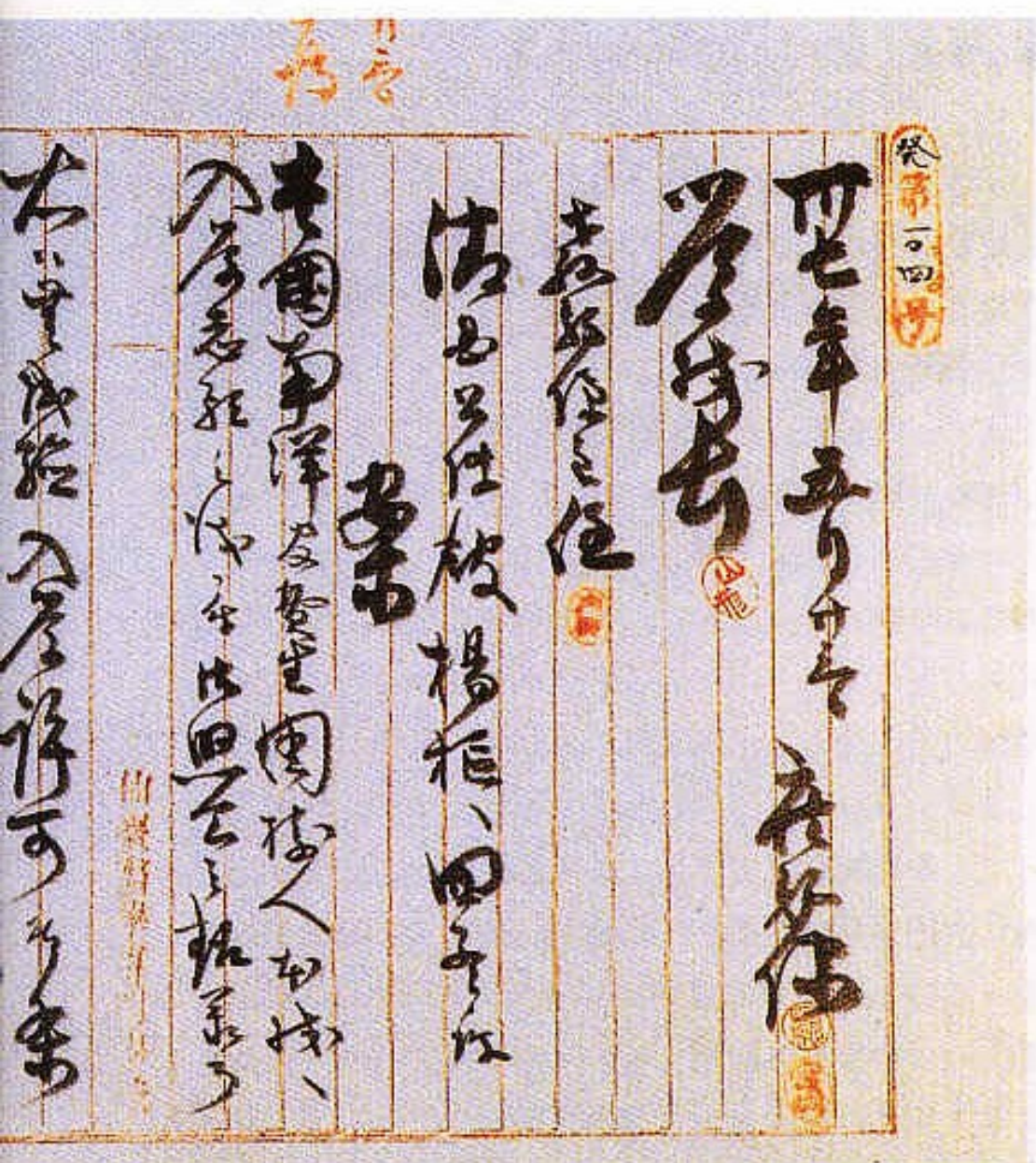
(1936年10月19日、上海の自宅で逝去 55歳)

・仙台医学专门学校时期的鲁迅

鲁迅进入仙台医学专门学校之后,选修了有关医学方面的基础科目和理论科目。可是,由于日语掌握得不太扎实,解剖学教授藤野严九郎担心鲁迅的语言能力,开始独自批改鲁迅的课堂笔记。此后,藤野教授每上一次课就给鲁迅批改一次课堂笔记。一般认为随着鲁迅对藤野教授敬慕之情的加深,同时也增强了他对解剖学的关心和兴趣。

鲁迅虽然升入了第2学年,可是从第2学年的中期开始,突然失去了对医学的兴趣,并于1906年3月从仙台医学专门学校自行退学,迁居到东京。

从此,鲁迅在东京同弟弟周作人一起开始了写作活动。后来于1909年8月回国。(1936年10月19日、于上海的私宅去世。55岁)



鲁迅自筆の入学願書

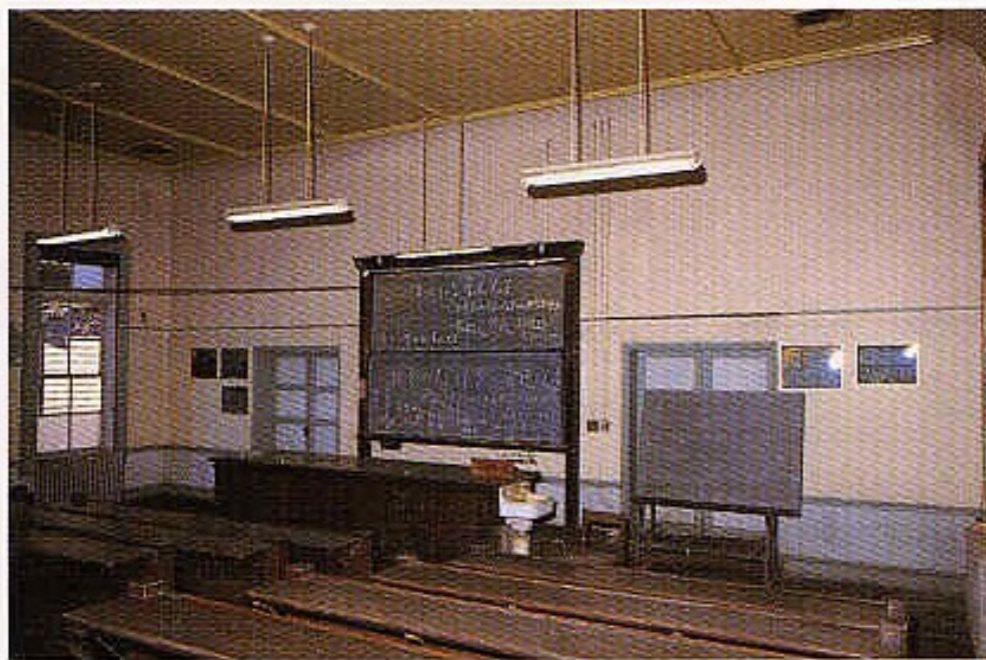
鲁迅亲笔填写的入学报名书

・魯迅年譜 (来日から帰国まで)

1881年9月25日 中国浙江省紹興県生まれ (本名周樹人)
 1902年4月 東京弘文学院普通速成科入学
 1904年4月 同校卒業
 9月 仙台医学専門学校入学。田中宅に止宿後、佐藤屋に下宿
 11月 佐藤屋から宮川宅に下宿替
 12月 第一学期末試験。冬季休業。東京に旅行
 1905年1月 第二学期始まる
 3月 第二学期末試験
 4月 春季休業。箱根に旅行。第三学期始まる
 6月 夏季休業
 9月 医学科第2学年進級
 12月 第一学期末試験。冬季休業
 1906年3月 同級生有志による送別会。退学
 4月 東京で文筆活動
 1909年8月 帰国。大学等に勤務。文筆活動

・魯迅年譜 (来日至回国期间)

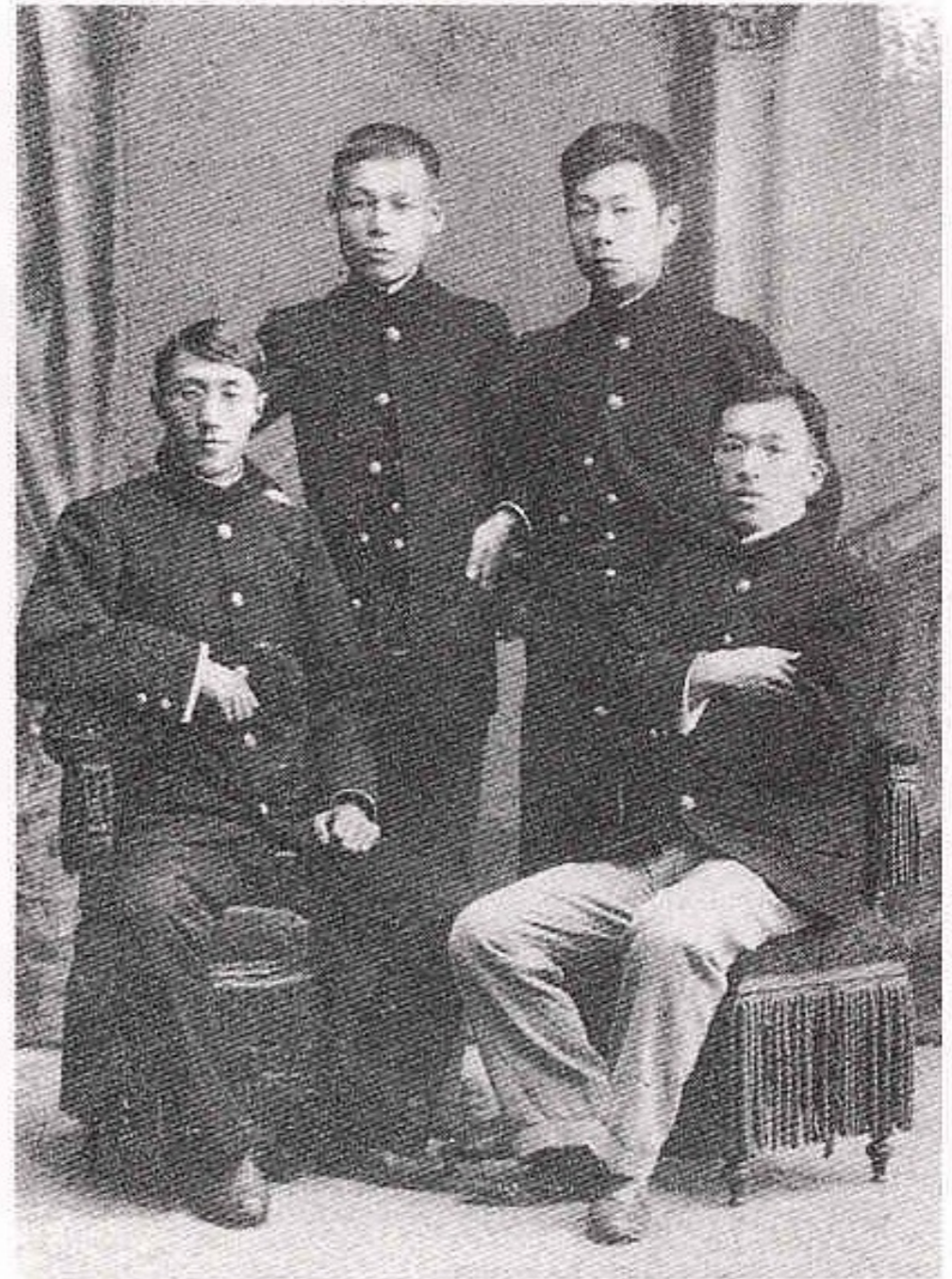
1881年9月25日 出生于中国浙江省绍兴县(原名:周树人)。
 1902年4月 进入东京弘文学院普通速成科。
 1904年4月 毕业上述学校。
 9月 进入仙台医学专门学校。
 起初住在田中家, 后来搬迁到佐藤家。
 11月 将住宿从佐藤家迁移到宫川家。
 12月 第一学期期末考试。寒假, 旅游东京。
 1905年1月 第二学期开始。
 3月 第二学期期末考试。
 4月 春假。旅游箱根。第三学期开始。
 6月 暑假。
 9月 升入医学科第2学年。
 12月 第一学期期末考试。寒假。
 1906年3月 由同学挚友举办送别会。退学。
 4月 在东京开始写作活动。
 1909年8月 回国。在大学等部门任职, 并进行写作活动。



魯迅が学んだ教室

魯迅学习过的教室

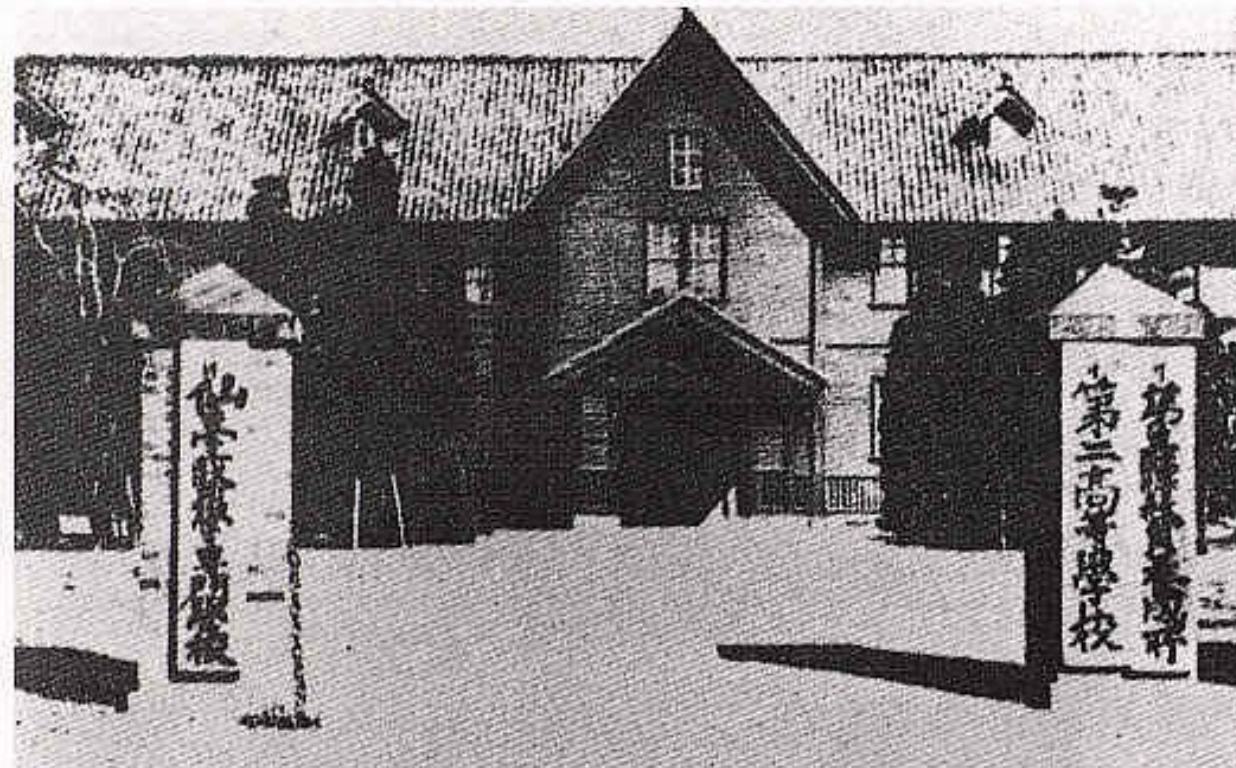
魯迅と同級生 (右後方 右后方) 魯迅和同学们



・ 仙台医学専門学校

医学専門学校はそれまでの仙台、金沢、千葉、岡山及び長崎の5旧制高等学校の医学部を分離して1901年に発足した。

仙台医学専門学校は第二高等学校と校地・建物を共用し、現在の東北大学片平キャンパスの北西寄りの一角にあった。魯迅が授業を受けた講義室は1934年に片平キャンパス内のやや北に移築されたが、現在も残されていて、往時をしのばせる。



仙台医学専門学校及び第二高等学校の正門 仙台医学专门学校及第二高等学校的正门

・ 仙台医学专门学校

医学专门学校是从以前的仙台、金泽、千葉、岡山以及长崎等5所旧制高等学校的医学部分离出来，于1901年成立的。

仙台医学专门学校与第二高等学校合用校园和校舍。位于现在的东北大学片平校园的西北角一带。鲁迅曾听过课的教室于1934年迁移到片平校园内偏北之处，并一直保存到今日，时常勾起人们的遐思。

・ 藤野巖九郎教授年譜

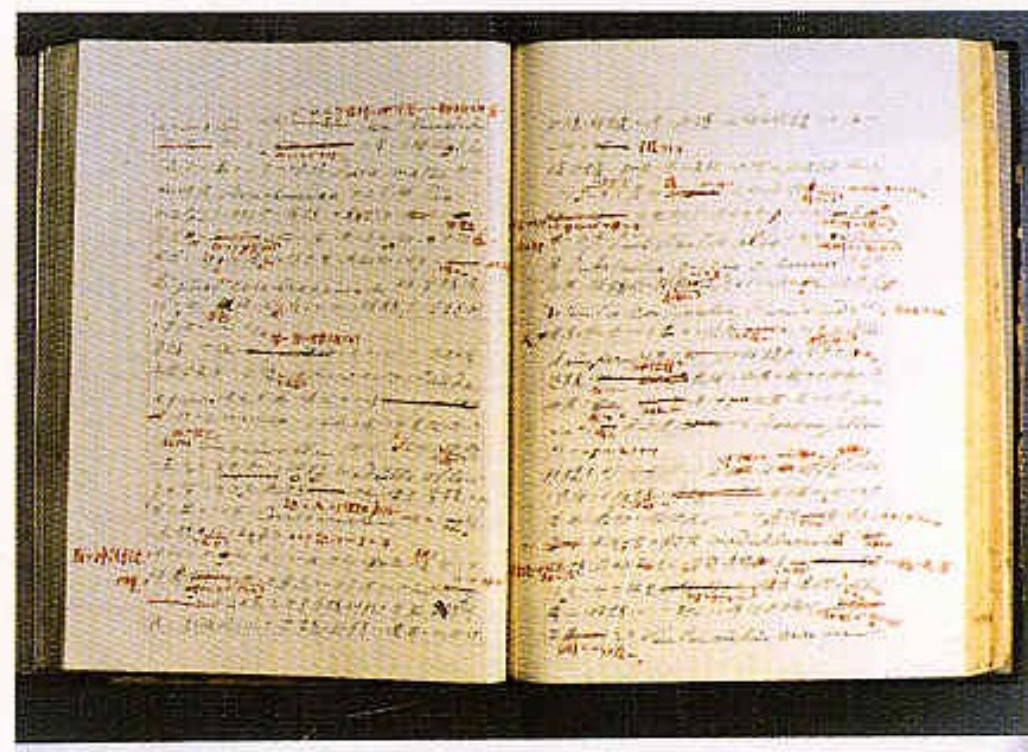
- 1874年 7月 福井県に生誕
- 1896年 10月 愛知医学校勤務
(助手に採用、後に教諭)
- 1901年 10月 仙台医学専門学校勤務
(講師に採用、後に教授)
- 1916年 秋頃 東京神田三井慈善病院耳鼻咽喉科に入局
- 1918年 4月 福井県で耳鼻咽喉科医院開業
- 1945年 8月11日 逝去 (享年71歳)

・ 藤野严九郎教授年譜

- 1874年 7月 出生于福井县。
- 1896年 10月 在爱知医学学校任职
(先做助手，后来升为教谕)
- 1901年 10月 在仙台医学专门学校任职
(先录用为讲师，后来升为教授)
- 1916年 秋季 转到东京神田三井慈善病院耳鼻咽喉科
- 1918年 4月 在福井县开始自营耳鼻咽喉科医院
- 1945年 8月11日 去世(享年71岁)。



藤野巖九郎教授
藤野严九郎教授



藤野教授が添削した魯迅の解剖学ノート
藤野教授曾批改过的鲁迅的解剖学笔记

・当時の仙台

2万の戸数、10万人の人口を有し、全国で11番目の中規模の都市であった。

杜の都と呼ばれ、市街地は樹木がうっそうと繁った侍屋敷がまだ残っており、工場から出る煤煙も少なかった。

鉄道は上野ー仙台間が一日6往復あり、市内には約千台の人力車が走っていた。



当時の仙台市街（仙台市戦災復興記念館所蔵）
当时的仙台市容

・当时的仙台

拥有2万户人家,10万人口,在全国排列第11位,是一个中等城市。

仙台享有“森林之都”的美誉。当时市内还存有林木繁茂的武士住宅,从工厂排放的烟雾也很少。

铁路交通每天有6趟往返于上野ー仙台的火车。市内大约有一千辆人力车来来往往,川流不息。



鲁迅の像

鲁迅的肖像

鲁迅と東北大学

発行日 1998年11月

編集・発行 東北大学国際交流課

編集協力 小川陽一・阿部兼也

参考文献 「仙台における鲁迅の記録」（仙台における鲁迅の記録を調べる会編）
「鲁迅と日本」（鲁迅生誕110周年仙台記念祭実行委員会編）

鲁迅和东北大学

发行日 1998年11月

编辑·发行 东北大学国际交流课

编辑协助 小川 阳一·阿部 兼也

参考文献 《仙台时期的鲁迅记录》（仙台时期的鲁迅记录调查会编）
《鲁迅和日本》（鲁迅诞辰110周年仙台纪念祭执行委员会编）

交通案内

交通指南



現在の階段教室所在地
教学楼现在的所在地